

## 特別史跡 岩橋千塚古墳群と追加指定地の概要

### 特別史跡 岩橋千塚古墳群

岩橋千塚古墳群は、和歌山平野の東側、紀の川南岸に位置する岩橋山塊に古墳時代前期から終末期にわたり築造された978基の古墳からなる大規模古墳群である。古墳群の一部が、昭和6年に史跡、昭和27年に特別史跡に指定され、昭和63年、平成12年及び平成28年の3次にわたる追加指定を経て、499基の古墳が分布する約63万㎡の範囲が特別史跡に指定されている。

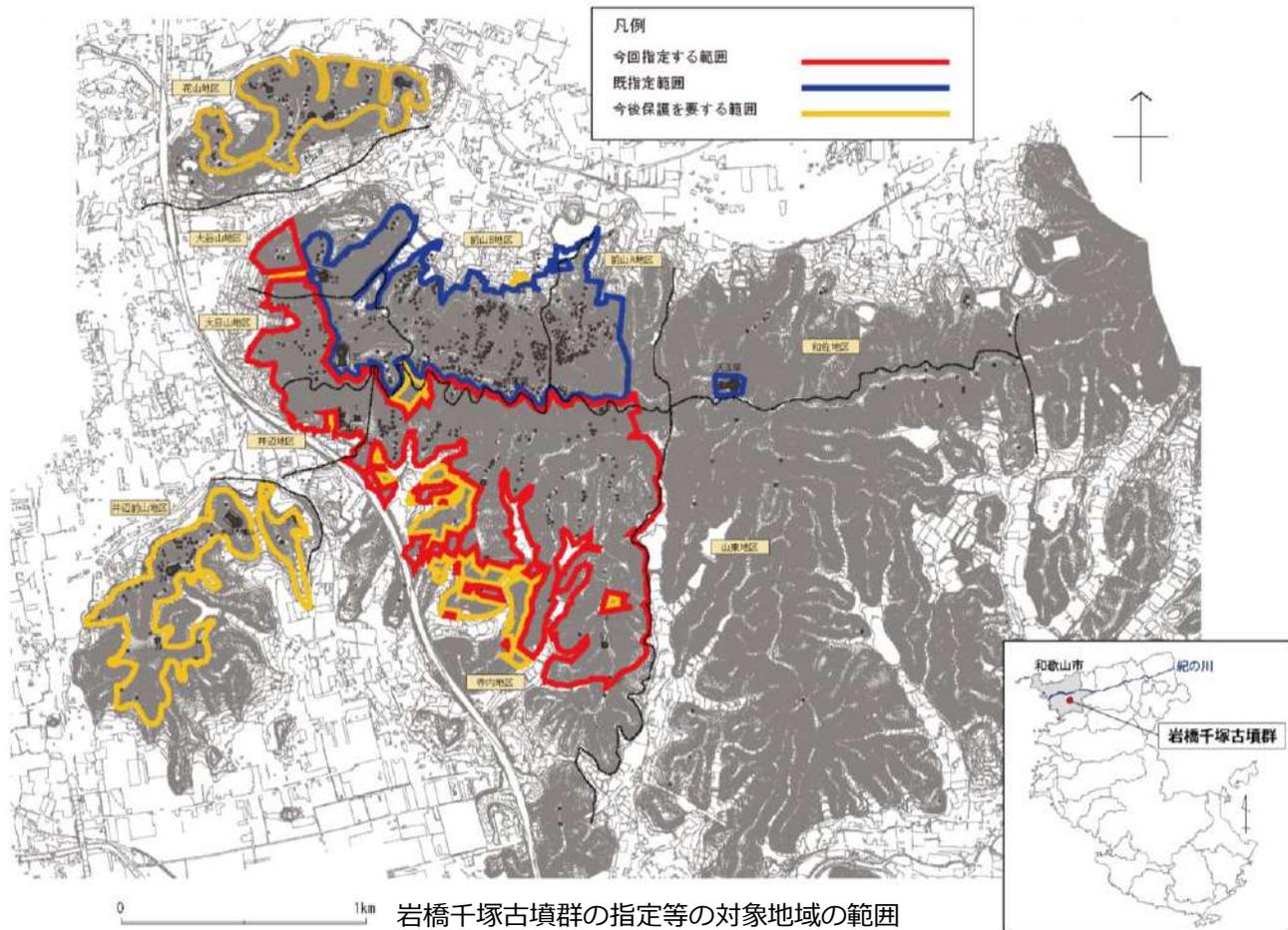
岩橋千塚古墳群には、古墳時代のほぼ全時期を通じて規模、墳形、埋葬施設が異なる古墳が多数築造された。その古墳の消長は列島内の古墳・古墳群の動向と一致し、ヤマト政権の政治的動向を反映した古墳群として評価できる。紀の川下流域の地域首長の墓域となる6世紀以降に最盛期を迎え、当該期には墳形、墳丘規模、埋葬施設、副葬品や埴輪の種類・量などから古墳群における階層構成が顕在化する。また、横穴式石室に紀の川南岸産出の緑泥片岩を用いた岩橋型横穴式石室や独自性の高い形象埴輪群を採用するなど、古墳群の強い一体性を発現する。一方、岩橋型横穴式石室の変遷や形象埴輪の意匠には他地域との積極的な交流も認められる。古墳群の築造集団には、『古事記』『日本書紀』に記載される古代豪族「紀氏」が比定されている。

このように岩橋千塚古墳群に認められる古墳の数、築造期間、消長、階層構成、独自性、地域間交流の様相などは、古墳時代の地域首長による地域支配の実態を示すと同時に、その背景にヤマト政権を中心とした列島の政治体制の変化や東アジア情勢の影響を窺うことができる点で、重要である。

### 追加指定地

古墳群の枢要な価値を示す花山、大谷山、大日山、前山A、前山B、井辺前山、井辺、寺内地区のうち、第4次追加指定では大谷山及び大日山地区の未指定地の一部並びに既指定地に所在しない6世紀後葉から7世紀初頭の首長墳が立地するとともに当該期の主たる墓域にあたる寺内地区及び井辺地区を追加指定する。

既指定地	629,943.51 ㎡
追加指定地	820,166.66 ㎡
合計	1,450,110.17 ㎡





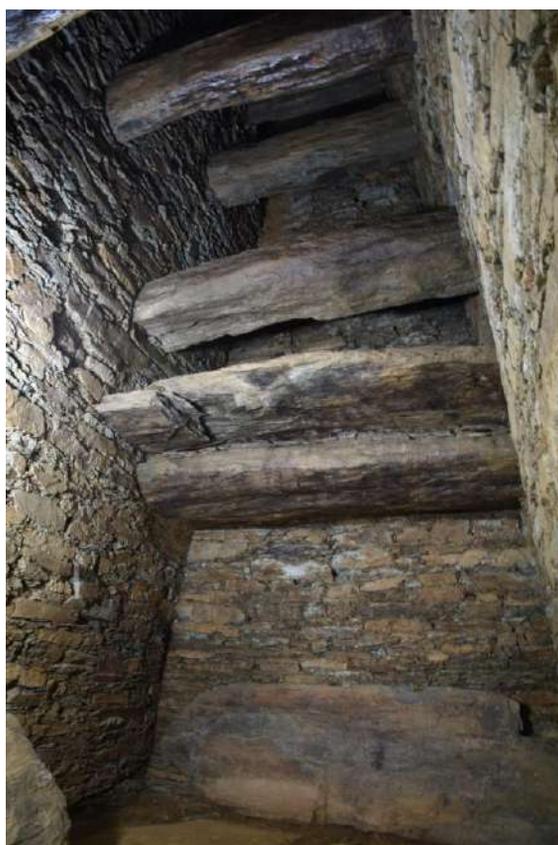
井辺 1号墳（追加指定地） 墳丘南西から



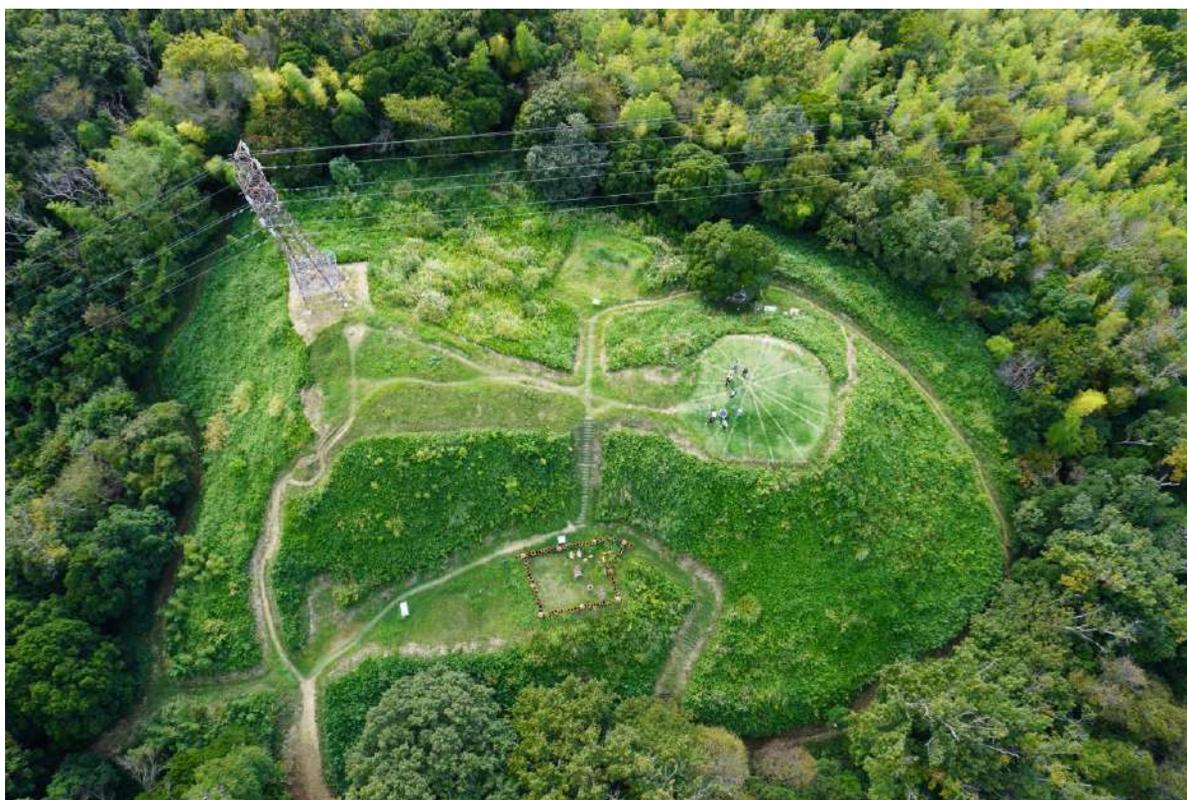
寺内18号墳（追加指定地） 前方部北西壇輪列検出状況



大日山70号墳（追加指定地） 横穴式石室



天王塚古墳（既指定地） 横穴式石室



大日山35号墳（既指定地） 航空写真